

皆野・長瀬ロータリークラブ

週報

- ◇例会日
◇例会場
◇事務所



第1・第2木曜日 12:30~13:30 第3・第4木曜日のいずれか 18:30~19:30
長瀬レクリエーションホテル 養浩亭
〒369-1305 秩父郡長瀬町長瀬1446 養浩亭内
Tel:0494-66-4134 / Fax:0494-66-4134 e-mail:minanaga@chichibu.ne.jp

UNITE
FOR
GOOD

よいことのために手をとるあおう

第1705回例会 令和7年10月16日(木)

【会長の時間】

畝 徳治

1943年03月

皆さん、こんにちは。2週目の会長の時間は失敗学の中からの話をしています。前は橋でしたが、今回は三大失敗の中の2番目の戦時標準船の構造と沈没という事です。資料の図は畑村さんの本ではなく、他からの資料になります。



戦時標準船の沈没ですが、この事故の背景には、第二次世界大戦当時、参戦したアメリカがヨーロッパに兵員と武器をどんどん輸送するために、船を大量につくらなければならないという事情がありました。そこで、板と板をくっつけるときにそれまで穴をあけて鋸でとめていたのを、すべて溶接でつなぐように変えました。そうすれば、船をブロックごとにつくり、それを集めて溶接でくっつけるというやり方ができ、大幅なスピードアップにつながるのです。たちまち、貨物船だけで2,900隻、その他を入れると5,000隻もの船がつけられました。新しい製法は大歓迎されたのですが、そのうち、大きな問題があることがわかりました。不思議なことに、冬に北の海を通った船が、次々と割れたり欠けたりして沈んでいったのです。調べてみたところ、零度ぐらいの温度になると鉄が強さを失い、割れてしまう現象が発見されました。これを「低温脆性」といいます。また、溶接するとき空気中に水分があると、水素が入り込んで溶接部分が脆くなることも発見されました。これは「水素脆性」といい、溶接するときにはどうしても回るトラブルです。もう一つは「応力集中」といって、ハッチの中をギリギリに物を入れたいからといって真四角にすると、穴の角も直角になり、そこに応力という力が集中してパリンと割れてしまうことがわかりました。この三つは、タコマ橋のときと同様に、鉄の大型構造物をつくるときに起こりやすいトラブルとして世界中に情報発信され、戦後、船に限らず鉄の大型構造物をつくる技術が確立するのに大きな役割を果たしました。

出席率

免除以外の 会員	出席免除 会員	出席	メイク	出席率
8	0	5	0	62.5%

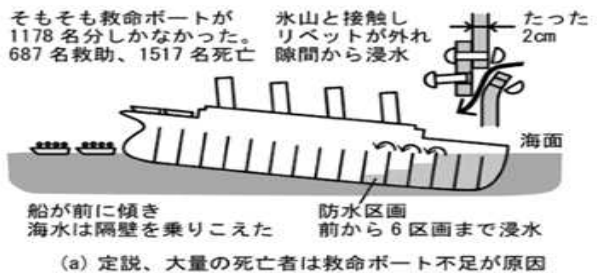
該の破損事故が頻発するリパティ船・潜水艦の仕業かと思いきや……

□当初は潜水艦の仕業とも疑われたようですが、ほかの船にも接合面に亀裂が生じている報告がもたらされており、原因が溶接した鋼板にあることは、戦中からなんとなく分かっていたようです。なお、戦時に船体の損壊事故を起こしたリパティ船は全体の約4分の1といわれており、かなり深刻だったことがうかがえます。



タイタニック号沈没事故 1912/04/15

豪華船タイタニック号がイギリスからアメリカのニューヨークへ向かう途中、氷山に衝突し、沈没した。氷山の存在が2度に渡り警告されていたにもかかわらず、減速もしなかった。氷山を発見した際に減速して舵を切ったが、船腹が衝突し、また低温のために船体の金属特性がもろくなっていたので船体が2つに割れて沈没した。



ロシアのタンカー2隻が嵐で沈没 2024/12/16

ロシア当局によると、数千トンの石油製品を積載していたロシアの石油タンカーが激しい嵐でバラバラになり、ケルチ海峡に石油が流出した。また、別のタンカーも損傷を受けて遭難しているという。

全長136メートルの「ボルゴネフト212」が船首が沈没して半分に割れ、少なくとも1人が死亡した。この船は1969年に建造された。また、全長132メートルの「ボルゴネフト239」も損傷を受けて漂流。同船は1973年に建造され、乗組員は14人。

【幹事報告】

山田 利明



1. 地区事務所より
 - ①国際ロータリー会長代理派遣について
 - ②地区大会申し込みの案内
 - ③月信10月号
2. 米山記念奨学会よりハイライトよねやま

会員卓話

畝 徳治会長

皆さんはロータリーの友今年6月号のスピーチ記事を読んだでしょうか。元文化庁長官の近藤誠一さんの講演記事です。平和な社会のための文化の役割について述べています。文化・芸術による教育が、共感力を育み、それが社会の連帯力、戦争防止にも繋がると言っています。全く同感です。この記事の挿絵をご覧になったでしょうか。近藤さんとは別人が描いています。一枚目は、戦争の場面を背景に人間の脳と人物像、二枚目は、脳と人物像です。私が特に注目したのは人物像です。この人物像が私にはユダヤ人に見えます。戦争とユダヤ人は直に繋がってしまいます。この記事を見たことで、ユダヤ人の事を話す気になりました。

表題は「ユダヤ人が嫌われる理由」です。ユダヤ人が嫌われる理由について、多くの人が論じていますが、納得できないものばかりです。あらためて自分の意見を整理してみました。始めの図は、話の全体図です。この図は、失敗学より借用しました。8月第2例会でお話した段落にあります。迫害の歴史をこの図に沿って要約すると、①迫害の長い歴史、②迫害の理由が忘れられた、③可哀想という同情の念が高まった、④国を作らせたなら、とんでもない国になってしまった、⑤ユダヤ民族が本性を現した、と言う流れです。①～④は大方の人が同じ考えだと思います。現イスラエルの行動を許容する意見は世界でも少数派です。⑤の本性即ち「嫌われる理由」を探るのが目的です。

情報源は殆どWEB記事です。Wordに落とすことが多く、Wordに落とすときのファイル名の付け方を説明します。最初の「20241129 収集・20200311 松井道昭・なぜユダヤ人は嫌われるか.docx」の例で示すと、2024年11月29日に収集、元の記事は2020年3月11日松井道昭氏が投稿、記事の表題が「なぜユダヤ人は嫌われるか」、です。収集日と投稿日に差が無いとき、収集日を省略しています。「20250527BBC・極右ユダヤ人がパレスチナ人に暴言や暴力、エルサレム占領を記念した行進で.docx」は、2025年5月27日BBCの記事で、収集日と投稿日に差が無いという意味です。次のような記事を引用しています。

(1) 迫害の理由は何か？代表的な見解。
20241129 収集・20200311 松井道昭・なぜユダヤ人は嫌われるか.20241129 収集・20210522 長谷川良・ユダヤ人が嫌われる「2つの理由」.

(2) イスラエル右翼の典型的行動例。

20250527BBC・極右ユダヤ人がパレスチナ人に暴言や暴力、エルサレム占領を記念した行進で (3) キリスト教が生まれる前の様子。

20250718 収集・2002年2月・BFP編集部・イエスと熱心党 20250719 収集・山我哲雄・出エジプト 20250721 収集・キリスト教会・イスラエルのエジプト脱出とカナンへの入植 20250722 収集・20240307NHK ブックス抜粋・イスラエルの歴史のはじまりとして伝えられた「出エジプト」の出来事

始めに(2)イスラエル右翼の典型的行動例。を示します。

「20250527BBC・極右ユダヤ人がパレスチナ人に暴言や暴力、エルサレム占領を記念した行進で.docx」の記事では、<右派活動家らは、「(19)67年にエルサレムは我々の手に、2025年にガザは我々の手に」と書かれた横断幕を掲げた。目撃者によると、ムスリム地区で営業を続けていたアラブ人店主らが、若いイスラエル人の集団から嫌がらせを受けたという。行進の最中には、「お前の村が燃えますように」、「お前の家は我々のものになる」といった掛け声が響き渡った。>と述べています。2023年10月の音楽イベントでも同様の暴言を吐いていた、とYoutubeニュースで聞いています。この説明に深入りすると煽動的文面になるので、ここまでにします。

次頁で(1)迫害の理由は何か？代表的な見解例。を吟味します。項番1：松井氏の要旨は、<キリスト教が忌避する職業(高利貸、買占商人、...)に就いていたので嫌われた。>。続けて、<ユダヤ人は根っからの商人や金貸しではなく、その昔、農業はもちろん、製造業にも、商業、サービス業にも就いていた。しかし、古代ローマ帝国による迫害が起こり、ユダヤ人の全世界への離散(ディアスポラ)が始まって以来、ユダヤ人は偏った職業に従事するようになった。それはなぜなのか。それはキリスト教の教義のほうに問題があったからだ。>と言っています。結論としてユダヤ人は悪くない、と言っています。しかしこの説明は、古代ローマ帝国による迫害が起こった理由を説明していません。実はキリスト教発祥前からユダヤ人が迫害されています。嫌われる理由は職業以外にあるはずです。

項番2：長谷川氏の要旨は、<唯一神教即ち『妬む神』を信仰したため。しかし大きな疑問が残っている。>と言っています。抜粋すると<アスマン教授は、「唯一神教は『妬む神』を信仰し、他宗派に対し排他的で、攻撃的である」と説いているが、唯一神教の中でユダヤ教だけが久しく迫害される理由については言及していない。ユダヤ教に内包され、キリスト教とイスラム教にはあまり見られない、他宗教、他民族から嫌われる理由は何だろうか。>と言っています。ユダヤ教が原因かも知れないと言いつつ、納得していません。これに関し、例えばNHKブックスに拠ると、<申命記法には祭儀集中と異教排除が明記されているのです。その冒頭から、偶像や異教祭儀の場は破壊すべきこと、神ヤハウェへの供犠・供物はエルサレム神殿で献げなければならないことが命じられています。>とあります。申命記法はユダヤ教、キリスト

教、イスラム教に共通の経典です。私の見たところ、「偶像や異教祭儀の場は破壊すべきこと」をユダヤ人だけが躊躇なく実行しています。この差異について後ほど P3 で比較します。

項番 3：ユダヤ人は攻撃的であるとの島田晴雄説があります。要旨は「イスラエルの安全保障の基本は「先制攻撃」の一言に尽きる。われわれ日本人からすれば過激にも思えるその方針だが、実はそこにはユダヤ民族が歴史的に経験してきたいくつかのトラウマがある。＞と、先制攻撃が悪いと言いつつ許容してしまっています。

私は、＜ユダヤ人の「先制攻撃」性は古い時代から顕在化しており、ナチス・ドイツによる迫害が起点と考えるのは間違いである。＞と考えます。根拠は、熱心党の行動です。「BFP 編集部・イエスと熱心党」で、＜キリスト教発祥の前ハスモン王朝時代に、狂信的な一派の熱心党が活動。納税を拒絶し、政府役人に対して略奪と殺りくを繰り返し、陰謀や暴力、詐欺行為を働くことをためらわなかった。＞とあります。

3つの宗教の差異を、「先制攻撃の進化論－1」で述べます。

項番 4：イスラエル建国時、ユダヤ人に同情する世論が高まりました。これが悪い結果を導いた大きな原因だと考えます。悪行だと解しても誰も止められなかったのですから。

ヨーロッパ史入門などによると＜ユダヤ人は、歴史を通じて多くの迫害や追放を経験してきました。これにより、彼ら・彼女らは数世代にわたって多くの国々を渡り歩き、新しい土地に定住することを余儀なくされ、この結果、ユダヤ人は「流浪の民」とも呼ばれるようになりました。＞とあります。「流浪の民」は弱者をイメージさせるが、実態は異なります。山我哲雄・出エジプト、あるいはキリスト教会・イスラエルのエジプト脱出とカナンへの入植、など見える事情は次の通りです。

要約＜豊かな土地に憧れてエジプトに移住したが、前 13 世紀、追い出された。エジプトを出てから、あちこちの先住民を滅ぼしながら移住。約束の地と称するカナンにも先住民がいたが、それを滅ぼして移住。次々に先住民を滅ぼしながら移住先を変えていた。エジプトを出てから 40 年を要してカナンに到達した。＞

P-5、P-6 ち添付したキリスト教会・イスラエルのエジプト脱出とカナンへの入植、の原文を読んでみます。

(5) 結語

1948 年のイスラエル建国の初めも、暴力的先制攻撃から始めている。先制攻撃や予防拘禁は罪のない人に危害を加える冤罪であり、過剰攻撃も過剰分は冤罪である。当然に被害者側が恨みを持つ。相手に恨みの感情を起こさせ、それに反撃するかの様に仕組み、攻撃する。これがイスラエル建国の実態である。現在も、パレスチナ住民に対して日常的に放火と殺戮を繰り返し、過剰攻撃や予防拘禁を躊躇なくやっている。ユダヤ人の凶暴性は、紀元前 13 世紀の出エジプトの時代に既に顕在化している。また熱心党の破壊的活動はローマ帝国による迫害を招いた。

出エジプトから 3300 年を経過しても悪習を改められない。現イスラエルの行動は、熱心党の行動と余りにもよく似ている。近い将来、熱心党後のユダヤ人と同じ道を辿るに違いない。

以上が、第一弾の結論です。

次の P-3 で、長谷川良氏の"唯一神教だけで説明するのは不可能"に対する私見を述べます。

キリスト教とイスラム教はユダヤ教から派生した宗派です。

「目には目を、歯には歯を」は古代バビロニアのハンムラビ法典からあり、イスラム教に引き継がれ、攻撃の抑制に寄与しています。

ユダヤ教にも「目には目を、歯には歯を」と有るらしいが、これをユダヤ人は「遣られたら完全に潰せ」と解釈し、実行しています。

派生した宗派と見比べれば、ユダヤ教の悪質性が浮かび上がります。

2023 年 10 月のハマスの攻撃直後にイスラエルに同情的だった世界の世論が、イスラエルの過剰防衛に比例して、次第に反イスラエルに変化していきました。反イスラエル世論が高まった理由が、イスラエルの過剰防衛である証拠です。反ユダヤ主義の起源は、ユダヤ人の職業でもなければ、宗教でもありません。味方を次々に敵方に変心させる、ユダヤ人の行動様式こそが起源です。反イスラエル・反ユダヤ主義は、この行動様式を非難しているのです。

「反ユダヤ主義」は平和に向けた正義であり、今は褒め言葉に思えます。これが、第二弾の結論です。

次の P-4 では、先制攻撃に関する私見をブログ風にまとめました。

人間集団あるいは交際範囲が小さく、隣の集団と接触しない場合、各集団の外敵は人間以外の生き物や自然災害が殆どです。そこでは、外敵からの被害を防ぐ最良の方法は先制対応です。この範囲内での先制攻撃は許容され得ます。

しかし、集団あるいは交際範囲が拡大し、隣の集団と接触・交際が必要になったとき、先制攻撃は相手方の恨みを買う原因になり、平和に向けて最良の策とはなりません。相手方と平穏な交際をするには、相手方の事情を理解する共感力が必要です。

共感力と言え、最近、愛玩の犬が猫と仲良く暮らす映像を見ることが増えました。

人に愛された犬は、異種の猫に対しても愛情を注ぐことができます。

多分、野犬にはできない行動でしょう。愛情を受けたか受けないかの違いです。

ユダヤ人は、日常的に他の集団との接触を避け、他の集団を敵視し続けています。他の集団から危害を受けた訳でもなく、隙あらば危害を加え続けています。離散時代の宗教文言を墨守し、接触時代に必要な共感力を学んでいません。

共感力を育めない人間と、愛情を受けた犬・猫とを比べ、進歩しているのはどちらかな。

平和に必要な共感力という尺度で評価すれば、ユダヤ人の後進性が分かりますね、とい皮肉です。